

がんの進行で大腸が閉塞すると、腸管内に消化液やガス、便がたまる。腹がパンパンに張り、腹痛や嘔吐が起きて全身状態は急激に悪化する。従来、こうした患者には緊急手術が行われ、一時的に人工肛門を設けざるを得なかった。だが、緊急手術では術後の合併症の危険性が高まる。高齢な

どて手術ができない患者もいる。そこで注目されるのが、筒状の金網で閉塞部を押し広げる大腸ステント。症状を劇的に緩和し、人工肛門を回避して生活の質(QOL)を向上させる。昨年1月に公的医療保険が適用され、普及への取り組みが始まった。

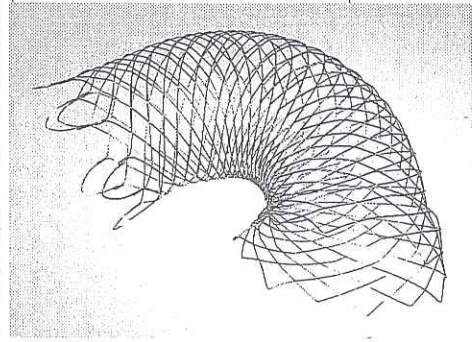
# 大腸閉塞にステント療法

## 金網で押し広げ症状緩和

「人工肛門はケアが大の外側のカテーテルだけ変。どうしても避けたかを引き抜く。すると、金網が本来の太さに戻ろうAさん(40代男性)は3年前に大腸がんを発症した。抗がん剤治療を続けていたが病状は進み、腹膜にも転移。昨年5月、大腸が詰まり便が出なくな。吐く。苦しい。手術を勧められたが、受けたくな

「Aさんの場合、ステントの留置に要した時間は約20分。」「治療は無痛に近い。快適に排便でき、食事は以前とほぼ同じ」とAさんは語る。

同病院外科の斉田芳久准教授によると、閉塞状態は大腸がん患者の1割程度にみられる。従来は緊急手術でがんの切除と人工肛門の造設を同時に行うことが多かった。一時的に人工肛門をつくる

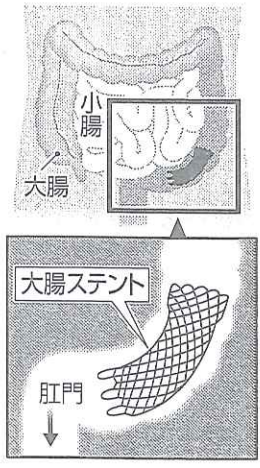


大腸ステント (ポストイン・サイエンティフィックジャパン 提供)

### 手術成績向上

「手術成績向上」のは、むくんで傷んだ腸管を直ちにつなぐと、危険な縫合不全を起こしやすいためだ。しかし、緊急手術には大量の便による手術の汚染や、全身状態の悪い患者に過大な負担を強いられる心配がある。また、人工肛門の閉鎖には、いずれ再手術が必要になる。緊急手術以外に「イレ

### 大腸ステントによる治療のイメージ



トで閉塞症状を解消し、全身状態を改善してから切除に臨めます。人工肛門をほぼ回避でき、手術成績も向上します」と斉田さんは解説する。

### 安全への配慮

同病院は1993年以来、がん切除前の大腸ス

## 人工肛門回避し患者負担軽く

「大腸ステントの恩恵にあずかるには安全への十分な配慮が必要。外科と内科の協力が欠かせない」と斉田さん。自身が代表世話人を務める「大腸ステント安全手技研究会」(会員約170人)を通じ、安全な使用法の普及を目指していく考えだ。兵庫県内では、有効性と安全性を評価する同会の研究に加古川東市民病院が参加している。

「大腸ステントはケアが大の外側のカテーテルだけ変。どうしても避けたかを引き抜く。すると、金網が本来の太さに戻ろうAさん(40代男性)は3年前に大腸がんを発症した。抗がん剤治療を続けていたが病状は進み、腹膜にも転移。昨年5月、大腸が詰まり便が出なくな。吐く。苦しい。手術を勧められたが、受けたくな

「Aさんの場合、ステントの留置に要した時間は約20分。」「治療は無痛に近い。快適に排便でき、食事は以前とほぼ同じ」とAさんは語る。

同病院外科の斉田芳久准教授によると、閉塞状態は大腸がん患者の1割程度にみられる。従来は緊急手術でがんの切除と人工肛門の造設を同時に行うことが多かった。一時的に人工肛門をつくる

「手術成績向上」のは、むくんで傷んだ腸管を直ちにつなぐと、危険な縫合不全を起こしやすいためだ。しかし、緊急手術には大量の便による手術の汚染や、全身状態の悪い患者に過大な負担を強いられる心配がある。また、人工肛門の閉鎖には、いずれ再手術が必要になる。緊急手術以外に「イレ

トで閉塞症状を解消し、全身状態を改善してから切除に臨めます。人工肛門をほぼ回避でき、手術成績も向上します」と斉田さんは解説する。

同病院は1993年以来、がん切除前の大腸ス

「大腸ステントの恩恵にあずかるには安全への十分な配慮が必要。外科と内科の協力が欠かせない」と斉田さん。自身が代表世話人を務める「大腸ステント安全手技研究会」(会員約170人)を通じ、安全な使用法の普及を目指していく考えだ。兵庫県内では、有効性と安全性を評価する同会の研究に加古川東市民病院が参加している。

